

設題 I

マーク・シートの解答用紙を使用すること(【1】～【50】は問題の番号を、①～⑩は選択肢の数字を表している)。

以下の【1】～【40】は(書画カメラで映写した【30】【39】を除き)すべて「講義資料」のプリントからの抜粋だが、句読点や省略箇所などを若干変更したものもある。【1】～【14】については[語群A]から、【15】～【26】については[語群B]から、【27】～【40】については[語群C]から、その出典名を選びなさい。また、文中の空欄部分【41】～【50】に該当する語を[語群D]から選びなさい。

【1】《道は猶を路のごとし。》

【2】《世に銭程面白き物はなし。》

【3】《売利ヲ得ルハ^{アキ}商人ノ道ナリ。》

【4】《実ノ商人ハ先モ立、我モ立ツコトヲ思フナリ。》

【5】《【41】は、【42】に仕合手伝では成りがたし。》

【6】《皆武家【43】ノ境界ニテ、制度ナキ世界故……。》

【7】《先王の道は、先王の造るなり。天地【44】の道に非ざるなり。》

【8】《今は銀がかねを儲くる時節なれば、中々油断して渡世はなりがたし。》

【9】《民ノ業ニ本末トイフコトアリ、農ヲ本業トイヒ、工商賣ヲ末業トイフ……。》

【10】《貨幣は国家が造る所、瓦礫を以ってこれに代えるといえども、まさに行うべし。》

【11】《道は其れ大地の如きか。天下地より卑きは莫し。然れども人の踏む所地に非ずということ莫し。道を離れて能く立つこと無し。》

【12】《古代に替り、^{かね}銀が銀もうけする世と成て、利^{つねてい}発【42】ものよりは^{もとて}常体の者の、^{もとて}資を持ちたる人々の利徳を得る時代にぞ成ける。》

【13】《惣じて、親のゆづりをうけず、その身【42】にしてかせぎ出し、銀五百貫目よりして、これを【41】といへり。千貫目のうへを長者とはいふなり。》

【14】《近江守が申す所も、其いはれあるに似たれども、はじめ金銀の製を^{あらため}改造らるゝごときの事なからむには、天地の^{わざわい}災も並び至る事なからむもしるべからず。》

[語群A] ①折たく柴の記 ②三王外記 ③経済録 ④語孟字義 ⑤西鶴織留
⑥政談 ⑦童子問 ⑧都鄙問答 ⑨日本永代蔵 ⑩弁道

【15】《物価の賤しきは、金銀の貴きなり。》

【16】《古へヨリ君臣ハ【45】ナリト云也。》

【17】《転定は先後有る者に非ざるなり。惟れ【44】なり。》

【18】《【44】には乱無く治も無く、唯安食・安衣なるのみなり。》

【19】《渡海・運送・交易は国君の天職なれば、商民に任すべきに非ず。》

【20】《属島之開業といふは、日本附之島々を開きて良国となすべきをいふ。》

【21】《天下ノ知ヲアツメ、血液ヲカヨハシ、大成スルモノハ、大坂ノ米相場ナリ。》

【22】《一国一口味方ニナリテ、他国ノ金ヲ吸ヒ取ルトハ、【46】マワシガ其機密也。》

【23】《故に此の【47】者は王・将・侯・士・僧、凡て貪食者の父母なり。これ転子なり。》

【24】《金銀の用は、唯諸貨運輸の用ばかりなれば、楮鈔にても、【48】にてもすむ者なり。》

【25】《然レバ則チ世界万国ノ蒼生ヲ安ズルハ、最初ヨリ皇国ニ主タル者ノ要務タルコトヲ知ル。》

【26】《斯ノ如ク万民ヲ八業ニ區別シテ、是ヲ六府ニ分配シ、一民ニ一業ヲ賜ハリテ各其事ヲ勉励セシメ、厳シク他ノ業ニ手ヲ出スコトヲ禁ズルヲ法トス。》

[語群B] ①佃原 ②稽古談③経世秘策 ④混同秘策 ⑤垂統秘録 ⑥統道真伝 ⑦夢ノ代

- 【27】《立国は私なり、公に非ざるなり。》
 【28】《経済学は元と人為の法に非らざること瞭然たり。》
 【29】《農戸の減少は必しも悲しむべきことに非ず……。》
 【30】《競争の文字を真黒に消して目録書を渡したことがある。》
 【31】《この失はれたる経済自治の回復を図らなければならぬ。》
 【32】《自由の気風はただ多事争論の間にありて存するものと知るべし。》
 【33】《利を争うは古人の禁句なれども、利を争うは即ち理を争うことなり。》
 【34】《あたかも一身にして二生を経るが如く、一人にして両身あるが如し。》
 【35】《故に文明の事を行う者は私立の人民にして、その文明を護する者は政府なり。》
 【36】《丈夫な土台さえできたならば立派な家が必ずできるというわけのものではない。》
 【37】《近来、日本の景況を察するに、文明の虚説に欺かれて、【49】の精神は次第に衰頹するが如し。》
 【38】《しからば経済社会の自滅とは何ぞやというに、経済社会を化して一個遊戯の世界と為すことこれなり。》
 【39】《【50】は我に存す、毀誉は他人の主張、我に与らず、我に関せずと存候。[勝海舟からの返書の一節]》
 【40】《けだしわれわれ人間のからだはたとえば蒸気機関のごときもので、食物という石炭を燃やさなければ、この機械は運転せぬのである。》

[語群C] ①学問のすゝめ ②経済上の理想社会 ③西洋事情 ④中農育成策 ⑤都市と農村
 ⑥貧乏物語 ⑦福翁自伝 ⑧文明論之概略 ⑨明治十年丁丑公論 ⑩瘠我慢の説

[語群D] ①行蔵 ②才覚 ③産物 ④自然 ⑤市道
 ⑥直耕 ⑦抵抗 ⑧飛銭 ⑨分限 ⑩旅宿

設題Ⅱ 論述問題—2問とも解答すること。

第1問 答案用紙(別紙)の表面を用いて、次の問いに答えなさい。

江戸時代の経済思想の大まかな流れを略述しなさい。(具体的に人名や事例を挙げること。図を用いてもよい。)

第2問 答案用紙(別紙)の裏面を用いて、次の問いに答えなさい。

経済学との関わりを中心として、福澤諭吉と河上肇の思想を、それぞれの経歴や著作に即しながら、対比的に論じなさい。